

患者の皆様へ

2022年3月31日作成

千葉大学医学部附属病院 呼吸器内科

現在、当施設では「間質性肺炎合併気胸に対する、デジタルドレナージシステムの有用性の研究」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では患者さんの診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名

「間質性肺炎合併気胸に対するデジタルドレナージシステムの有用性を検討する後方視研究」

2. 研究の意義・目的

間質性肺炎の治療中に、気胸という肺が破れてしまう病気を起こすことがあります。中等度以上の気胸の場合、ドレーンチューブを入れ、バッグに繋いで治療を行います（胸腔ドレナージ）。間質性肺炎をもつ方の気胸は治りづらいことが多く、色々な治療を必要としたり、入院が長くなったりすることがあります。近年、胸腔ドレナージに繋ぐバッグが、これまでのアナログシステムに加えてデジタルシステムを用いたものができました。これは肺の手術後では、ドレーンチューブを入れている期間や入院日数を減らすことができると言われています。今回、私たちは、間質性肺炎をもつ方の気胸について、有効性を確認するためにこの研究を行います。

3. 研究の方法

該当する患者さんの診療録に記載されている診療情報をもとに、間質性肺炎合併気胸に対する、デジタルドレナージシステムの有用性について検討を行います。

2016年4月から2022年3月までに、間質性肺炎合併気胸で千葉大学医学部附属病院・聖隷浜松病院に入院された患者さんのうち、診療録に記載されている、年齢・性別・病歴・血液検査値・レントゲン・CT画像情報・間質性肺炎に対する治療・気胸に対する治療のデータを調べます。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に

管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院呼吸器内科学臨床研究室の鍵のかかる保管庫で保管します。

5. 研究組織

- 千葉大学医学部附属病院 呼吸器内科 研究責任者 安部 光洋
- 聖隷浜松病院 呼吸器内科 研究責任者 中村秀範

6. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院呼吸器内科

本件のお問合せ先 : 千葉大学医学部附属病院呼吸器内科

043(222)7171 内線 5471

研究代表機関 : 千葉大学医学部附属病院呼吸器内科

研究責任者 : 助教 安部 光洋

文部科学省・厚生労働省・経済産業省による「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています